

## 日本あちこち河川遡行記(第248回)

京都 1-2-2-1. 高野川(その1) 平成30年7月1日(日)晴

梅雨の晴れ間を利用して遡行に出かける。鴨川の支流、高野川に向かう。岡山からは先日と同じ「こだま」に乗車。今日は日曜日でガラガラ。1両に3名程度の乗車で廃線目のローカル線と変わらない。1時間に1~2本のひかり、こだまは、増発されたのぞみ退避のための停車時間が長く本数も少ないので信頼性の低い列車となった。

新大阪、京都、東福寺と乗換え京阪の普通電車に乗ると、京阪名物?の5ドア車に当たる。長さ18mのこの電車はラッシュアワーには5つの扉を全て使用し、乗降時間の短縮化を図りラッシュが過ぎると2つのドアを締切り網棚付近に上げておいた座席が下がってくる仕組みになっている珍しい車輌である。山手線の最も混雑する車輌にも5ドアが有るが、こちらは常に5ドアを使用している。近鉄はラッシュにはベンチシートが並び、過ぎると2名の座席がそれぞれが自動的に直角に曲がり景色が見える座席に変身する車輌を開発した。関西は面白い電車がおおおまっせ!

三条で後から来た特急に乗り換えると車内中吊り広告に京阪らしいのを見つけカシャ。8両のうちの1両連結の特別車両の前で舞子はんが並んでる。よろしおますなー。



01.京阪の5扉車のここに注目!



02.こんな中吊り広告出来るんは京阪  
だけどす

地下の終点の「出町柳」から地上に出て交差点の南西角から叡電の出町柳駅舎を見ると倉庫のような姿をしている。何とかかなりまへんか、その姿、形は!振り返ると付近の絵地図が風景と合わせて北を右側にして立っている。西から鴨川本流が、東からはこれから遡上する「高野川」が眼前でY字型に合流している。その間に下鴨神社と糺の森が有る。



03.叡電出町柳駅は倉庫のよう



04.駅前の河井橋からスタート

前回通過した「河合橋」から上流側を見ると川の両岸に狭い遊歩道が整備されている。右岸側の普通の道を北に向かうと両側には超とまではいかないが高級住宅地が続いている。川と森と神社の近くで環境抜群だなー。神社の東側の参道入り口の鳥居がこちらを向いている。



05.高野川の両側に遊歩道が有る



06.下鴨神社の東側の鳥居前を通過

暫く市道を北に進み次の「御蔭橋」を左岸側に渡り遊歩道を北北東に進む。今日は35度近くまで気温が上がるので木陰が出来易い東側の遊歩道かその上の川端通の歩道を歩くことにする。丁度その間に街路樹が並んでいるのである道端に鴨川との合流点から1kmの距離標が立っている。淀川から見れば曾孫なのに距離標があるではないか。

川端通にあがり進むと道の東側に「京都大学 福井謙一記念研究センター」なる瀟洒な建物が建っている。あのノーベル化学賞受賞の福井博士を記念した

基礎化学研究センターである。京都大学と学長をされていた京都工芸繊維大学との丁度中間に有るのは偶然だろうか？福井教授は生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授と同じく大阪育ちである。



07.こんな支流にも距離標が有るぞ



08.ノーベル賞受賞者の研究所が

北大路通の「高野橋」に来ると、交差点に面した拡幅桁の下フランジの上に多くの鳩が留まっている。橋にとって鳩は糞害の基になっており嫌われ者で、高速道路等では桁全体をネットで覆い鳩が入れないようにしているが、この橋は無塗装橋なので放置しているのかな。



09.橋の下フランジは絶好の住処



10.耐候性鋼材を使った無塗装橋なのでまーいいか！

遊歩道を進むとぽっかりと口を開けた暗渠から水が川に合流している。地形図で見ると「白川」がここで高野川に合流している所である。白川と言えば「哲学の道」や「ぶらタモリ」に出て来た川名で合流点とその直ぐ近くの地上部の姿は名前のイメージと合わないぞ。



11. 疏水と白川の水は右側の暗渠から出てくる



12. 「白川」のイメージと合わない風景だ

川幅が狭まり両岸に有った遊歩道も無くなってしまうと川中にピッカピッカの橋脚が完成している。両岸の橋台も完成しており後は桁を架けるだけの状態だ。右岸側の橋台の位置とこちら側の橋台の位置がずれており、こちらの橋台の幅が広い。良く見るとあちら側の市道の位置とこちら側の市道の位置が10mほどずれ、こちら側が北に偏っている。左岸側の橋脚と左岸側の橋台の間の径間でこのずれを吸収し拡幅をするのだろう。昔は橋で両側の道を繋ぐことは考えていなかったのだろう。施工は地元京都の大手建設会社で工事の詳細な説明板が置いてある。かつて紀淡海峡大橋の検討業務で訪れた国交省の事務所の技官が卒業後に就職された会社だと思いだす。



13. 新橋の下部工が完成

地形図に記載されている京都工織大は川沿いの高い樹の列に隠れたのか見えず、川端通を進むと京都市街地の環状道路の北の端の「北山通」が現れる。「松ヶ崎橋」を調べ上流側を見ると、比叡山の「四明岳 (H=838m)」の尖った山頂が近くに見える。橋の直ぐ北側には比叡の南山腹から流れて来た支流の「音羽川」が合流している。「音羽」と言えば新幹線が真下をトンネルで通過

する「音羽山」が有るが、位置がずれている。



14.北山通りの「松ヶ崎橋」から比叡を見る、音羽川が合流

川はここから山間部となる。高野橋から川端通は国道 367 号となり狭まった谷間を叡電と一緒に北に向かう。国道の歩道を歩いて行くと大手デパートの惣菜売り場に店を出している「山ばな 平八茶屋」が突然現る。川との間にある敷地の入口には山賊の砦の入口のような門らしきものが有る。山が迫ったこの辺りの地名が「山端」でやまばなと読むのだ。直ぐに今度は今流行の猫カフェも出現！今度は山猫だ。



15.平八茶屋の入口は山賊の砦の様



16.直ぐ近くには猫カフェが

叡電の本線と鞍馬線の分岐駅の「宝が池」の前を通過し「山端橋」を見に西に向かう。橋は昭和 13 年完成のコンクリート橋で状態はグー。橋から北側を見ると、西側から支流の「岩倉川」が合流している。「岩倉具視」の岩倉川である。



17.北西から「岩倉川」が合流

気温は手元の温度計で 34 度！国道沿いの歩きなので何処かの食堂で昼をと思っていたが、食欲が無いのと身体を冷やすため国道沿いのコンビニに入りサンドとコンビニ冷コで昼とする。15分ほど冷を摂り遡行を再開する。

北からの流れが東側からの流れとなり国道も川に合わせて方向を変える。直ぐに叡電の鞍馬線が複線で川と国道の上を横断している。暫し電車の通過を待ったがなかなか現れないので歩くと 100m ほど進むとあの「きらら」が橋を通過していく。あと 2 分待てばよかったのに。

道は左岸側から右岸側になり坂道となる。道際に 13 の仏が彫られた石仏が立派な屋根付きのお家に入っておられる。13 仏は珍しいのでカシャ。次は「崇道神社」のこれぞ神社と言える佇まいが目に入る。桓武天皇の弟の早良親王を祀った神社で社殿は背後の山の中腹に有る。白砂の広がる神社も良いが、このように参道の両側に木々が茂って石段が続く神社は良いものだ。



18.国道脇に珍しい 13 仏の石仏が



19.「崇道神社」の佇まいはこれぞ神社だ

道は段々キツイ坂道となり暑さとのダブルでこたえるなー。川は急流となるのを防ぐため多くの階段状河川としている。坂道を登り切ると平地が川との間に広がり塀に囲まれたホテルが有るようだ。かつての八瀬遊園の有った所だろう。



## 20.坂道の続く国道から水量豊かな川を見る

予定では更に 2km 先まで歩くつもりであったが坂道と暑さで丁度叡電の駅も近いことから今日はここまでとして駅に向かう。

叡電（叡山電鉄）はかつては「京福電鉄」の京都支社の鉄道で、嵐電（嵐山電鉄）も運営し、福井では越前本線、永平寺線や三国港線も運営していた。叡電は最近京阪の完全子会社となり、嵐電も京阪の系列会社となった。京都バスも京阪の子会社となり、京都は京阪帝国になっているぞ。

叡電本線の終点「八瀬比叡山口」駅は緑の大屋根のある工場のような駅である。比叡山に昇るケーブル乗り場は駅から川を渡り 100m ほど先に有る。山頂に向かうには更にロープウェイに乗り換えることになる。大阪からなら京阪特急、叡電単行ワンマンカー、ケーブルカー、ロープウェイと各種乗り物に乗れませ！川を越える人道橋は木橋である。橋の上から下流側を見ると水量を増した川に大勢の人が川遊びをしている。老人のグループが川の絵を描いている。



21.叡電本線「八瀬」駅は工場風

22.比叡山へのケーブルカーにご乗車  
の方はこの橋を渡って



23.今日の気温は 35 度！水辺が大賑わい

駅に入ると広い構内に中型の1両のワンマンカーがひっそりと止まっている。3線分のホームがかったの賑わいを彷彿させる。高野川の上流の「大原」には有名な「三千院」や「寂光院」が有り、八瀬まで電車で来てもバスに乗り換える必要が有り、出町柳や地下鉄の「国際会館駅」から大原行きのバスが多く走っている。



24.屋根に覆われたホームに中型電車が1両

出町柳から往路と同じ経路で帰路につく。京都からの新快速には先頭車の運転席の後ろから線路状況を見ることにする。高槻駅から平服の女性職員らしき人が計測機器を持って運転席に入って来た。「ははーん、地震後の45km制限地点の線路状況を調べるために乗ってきたのだな」。保線区の作業服を着ないで平服なのが可笑しい。加速度計か変位計を使っているのかな？小型テレビカメラもセットして計器と連動させている。制限解除も近いかな？女性は新大阪



駅で降りた。複々線なので最低4回は計る必要があるだろう。



25.運転席横で女性が計測機器を設置し45km制限地区を通過

本日の歩行距離：7.8km。調査した橋の数：16。

総歩行距離：9,992.9km。総調査橋数：12,156。

使用した1/25,000地形図：「京都東北部」（京都及大阪2号-4）